

福岡市のマリーナMARINO Aにおける利用者の意識調査

九州共立大学 工学部 学生員 ○佐々木 由里

九州共立大学 工学部 正 員 片山 正敏

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、福岡市のマリーナMARINO Aにおいて、平成6年7月～8月の間、①属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について「アンケート調査」を実施したので、利用者の意識の概要について報告する。なお、MARINO Aの概要、来訪者の属性、施設の利用状況などについては、参考文献を参照されたい。

2. アンケート調査の概要

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	MARINO Aへの来訪者全員
調査期間	平成6年7月～8月の10日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目30、合計41項目 艇置者等には別途10項目追加
回収数	2557
有効回収率	2417(94.5%)

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって答えているものを有効回答とした。

3. 施設利用前の意識

(1) 来訪者の施設利用前の意識

来訪者の施設利用前の意識としては、約57%が「普

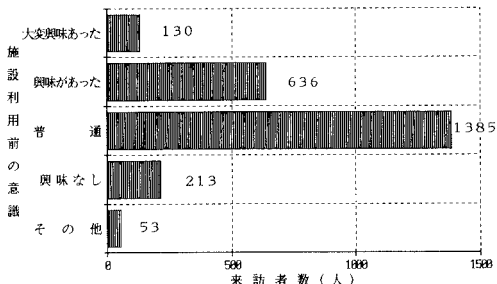


図-1 来訪者の施設利用前の意識

通」、続いて約26%が「興味あった」と回答している。

(図-1 参照)

(2) MARINO Aの知名度

来訪者の約42%が「まあまあ知られている」と回答し、続いて約24%が「少し知られている」で、「よく知られている」は約20%である。(図-2 参照)

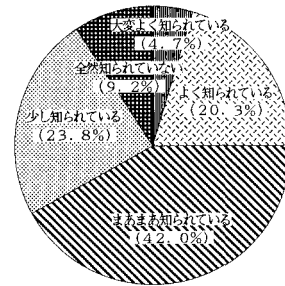


図-2 MARINO Aの知名度

(3) 利用前の施設に関する知識

来訪者の利用前の各種施設に関する知識(複数回答)は、「食事ができること」すなわち、レストランとしての機能を約50%がよく知っていたと回答している。続いて「買い物ができる」ショッピングとしての機能を約41%がよく知っていたと回答しており、マリーナとしての機能はまだ十分知られていないようである。

(図-3 参照)

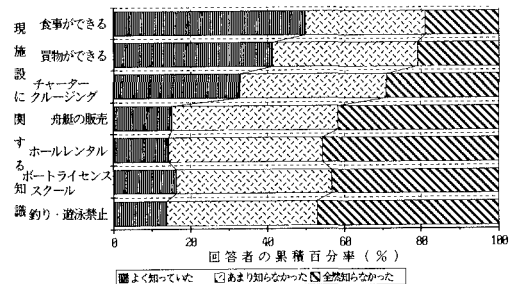


図-3 利用前の施設に関する知識

4. 施設利用後の意識

(1) 来訪後受けた感じ(イメージ)

来訪者の約52%が「普通」と回答し、約28%が「楽

しかった」と、「もっと楽しいと思っていた」の約14%を上回っている。

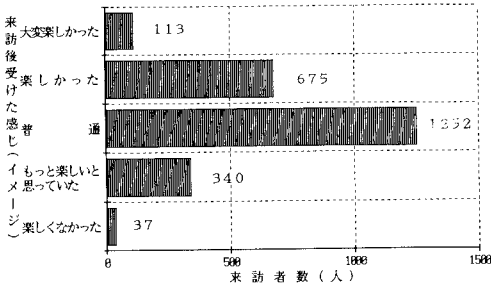


図-4 来訪後受けた感じ(イメージ)

(2) 増設を希望する施設

海洋性レクリエーション(マリンレジャー)施設だけに、増設を希望する施設(複数回答)としては、水族館(水槽)が約26%と多く、続いて展望台が約24%、遊(散)歩道が約23%となっている。(図-5参照)

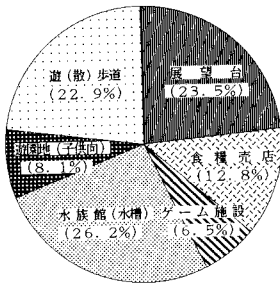


図-5 増設を希望する施設

なお、禁煙コーナーの設置については、すでに指定喫煙場所以外では禁煙となっているため、現状のままでよいと約55%が回答している。

(3) レストランの営業時間

現行の営業時間(複数回答)は、午前11時30分～午後9時30分となっており、約44%が現在のままでよいと回答し、約25%が終業を2時間遅く、約19%が1時間遅くと希望している。(図-6参照)

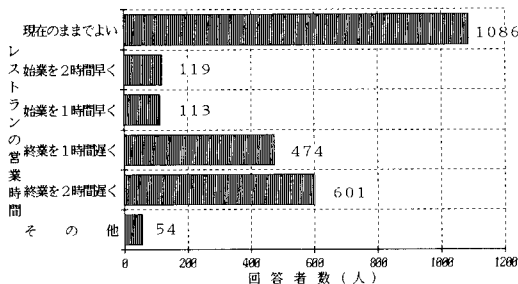


図-6 レストランの営業時間

(4) 公共施設としてのマリナーの必要性

公園などと比較して、公共施設としてのマリナーの必要性について、来訪者の約28%が絶対必要、約67%が必要と回答しており、併せて約96%の人がその必要性を感じている。(図-7参照)

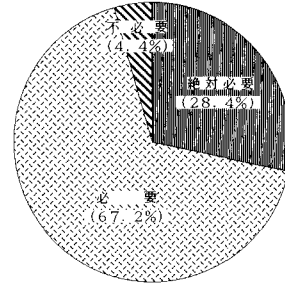


図-7 公共施設としての必要性

(5) 周辺に緑地などの必要性

MARINO Aの周辺にはすでにある程度の緑地が整備されているため、公園(広場)、散歩道(遊歩道)などの希望が多い。(図-8参照、複数回答)

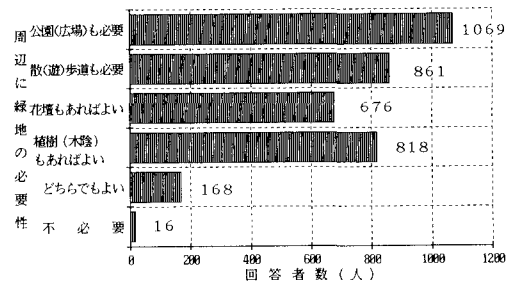


図-8 周辺に緑地などの必要性

5. おわりに

昨年度(北九州市新門司マリナー)に引き続いて福岡市のマリナーMARINO Aにおける利用者の意識についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画のためのデータが得られた。今後、さらに他場所における調査を進めて、比較検討を行いたい。

最後に、今回の調査に御協力・御助言をいただいた(株)西福岡マリナー、九州共立大学の関係者に感謝いたします。

参考文献

中野博司、片山正敏：福岡市のマリナーMARINO Aにおける利用状況調査、平成6年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集、平成7年3月